



柏ビレジわんにゃんボランティア

たより 53号

2017年 7月 22日発行 第53号
kvwan-nyan555758@jcom.zaq.ne.jp
記事執筆 渡邊千佳子・吉成玲子・岩本朋子



猛暑でも快適に過ごせる工夫を！

最近では異常なほどに暑くなる日本の夏。家の中で熱中症になるワンコやニャンコも意外と多いんです。

犬も猫も湿度が高いのはNG!!



犬は暑いのが苦手だけど、ネコは暑さに強いという思い込みは危険です。犬も猫も肉球からしか汗をかけません。体に汗腺がないので熱がこもりやすい生き物です。電気代はかかりますが、猛暑の時期は、



お留守番をさせる時もエアコンをつけておきましょう。

猫の場合も、設定温度を27~28℃の冷房にすることで適切な湿度を保つことができます。暑がりな犬の場合は、もう少し低めの温度設定にしても良いでしょう。ただし、ハウスでの留守番をさせるなら、ハウスの場所は窓際を避け、エアコンの風が直接当たらないところにおきましょう。

また、新鮮な水がいつでも飲めるように用意しておきましょう。

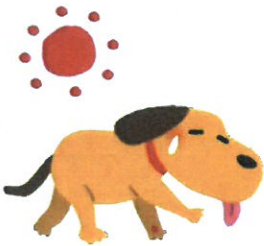


猫は暑いと普段以上に動かなくなるので、水を猫の通る所、何か所かに置いてあげると良いでしょう。涼しく過ごせるジェルマットやアルミボードもおすすめです。最近では、熱を遮るカーテンもあり効果的です。



その子に合った対策をされて、お留守番の時も、体調を崩さずにいられるようにしてあげて下さいね。

真夏の散歩は涼しい時間に



晴れた真夏のアスファルトは、午前9時前には40℃を超え、日中は60℃くらいまで暑くなります。靴を履かない犬の肉球は、気づかぬうちにヤケドをしてしまいます。アスファルトだけでなくマンホールや屋根のないコンクリートの駐車場やベランダも要注意！



草木の日陰のある所や、土の地面の場所は散歩に最適です。

飼い主さんも色々予定があり忙しい事と思いますが、

夏のお散歩は、朝は8時くらいまでに、夕方は日が沈むくらいの時間からにすると良いでしょう。人よりもずっと地面近くに体のあるワンコは、地面からの反射熱で熱中症になることもあります。保冷剤を首に巻いてあげたり、薄いクールTシャツを濡らし絞ってから着せるのも良いでしょう。アスファルトに手の甲を数秒あててみましょう。暑く感じる時はお散歩は控えて、アスファルトを触っても大丈夫な時間に連れて行ってあげましょう。